

令和 6 年 第 11 回大河原町教育委員会定例会会議録

- 1 招集日時 令和 6 年 11 月 20 日（水） 午後 2 時 00 分
- 2 招集場所 大河原町役場 2 階 第 1 会議室
- 3 出席委員 舟山幸枝委員、一盃森広志委員、丹羽宜博委員、片倉亜寿香委員、鈴木洋教育長
- 4 説明のため出席した者
櫻田尚 教育総務課長、齋修 生涯学習課長、小野寺淳一 学校教育専門監、佐藤友幸 課長補佐
- 5 開 会 午後 2 時 00 分
- 6 令和 6 年第 10 回教育委員会定例会会議録の承認について
鈴木教育長 | （委員全員に諮って）承認する。
舟山委員、一盃森委員 署名。

7 教育長報告

（1）一般事務報告

報告第 9 号 障害児の就学措置に係る答申について

佐藤課長補佐より説明。

丹 羽 委 員	本人にとってどうか。一番良い方法なのか。障害のある子や健康な子がいっしょのクラスで進んでいけるのが理想である。
鈴木教育長	これはこちらが判断すべきものではなく、保護者が自分のお子さんの将来を考えて、最終決定する。就学指導委員会の判断と乖離する場合も多々あるということでございます。 これは結果的に子供のウェルビーイングを両者とも考えているんですけども、ちょっと違っているということだけで、いずれその子にとっての一番良い環境というのがどういうものかっていうことを、やはり、時間がかかっても見定めていく必要があると思います。
丹 羽 委 員	それぞれの子供の幸せを願うばかりですね。
舟 山 委 員	先生方は、誰が見てもこの子は支援学級に入った方が幸せじゃないかなと思っても、親御さんが判断できない場合があると思ひまして、気になりました。

鈴木教育長	先生方の説得とかにもよく理解できない親御さんもいる。方策を考えていかなければならない。
鈴木教育長	特別支援の言葉を出しただけでも、不安で怒ってしまい、話し合いに応じない家庭も少なからずございます。本来なら、インクルーシブ教育で、全ての子が障害の有無に関わらず、一緒になって生活するというのが理想だと思います。そうやってきたときに、今の学校教育制度の中で、そういう 1 人 1 人いろんな個に応じた対応ができるかという、なかなかできない。そうするとやはり、教室を変えて個別に指導していく等々が今の教育界では精いっぱい取り扱いというか、対応になってしまうんじゃないかなと思います。いろんな子供がいて、いろんな先生がいて、数多くいて、それに対応できるような、そういうような体制ができればね、私はいいと思いますけどね。
一 盃 森 委 員	今は日本の文科省の考え方も特別支援学級で子供たちを育てましょう。という方針がございまして、国の方針に沿ったやり方でやっているわけです。本当に子供の数が絶対数として減ってる中で、こうやって審議に上がってくる子供さんの数が年々増えてきてるっていうふうなことを思ったときに、個別最適化とはいうものの、受け皿である学校がどういうふうな形で対応していくことができるのかっていうことを考えるとね、なかなか難しい部分も実際はありますよね。
鈴木教育長	中学校に行った時に、障害を抱えていながら普通学級にいる子が多くなるので、先生方の対応っていうのが非常に混乱してくると思います。そういう意味で子供たち自身も中学以降の学びに付いていけるかどうかというところもあって、そういう中での葛藤が生まれてくるような気がします。その苦しみを親御さんが共有してどう判断していくかっていうところを、やはり時間をかけて待つしかないかなと思っているところです。本当に難しく、デリケートなところがございます。

(2) 専決事務報告 なし

8 議 事

議案第 36 号 大河原町地域学校協働本部員の委嘱について

生涯学習課長より説明。

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

9 その他

(1) 教育長報告

1 よみうり寸評「紙とデジタル」(読売新聞)

漢字の読み書きの素晴らしさというか、そちらの優位性が、研究者の間からは、かなり言われている。学校の中では、デジタル教科書がどんどん入ってきているが、デジタルだけではなくて、紙とデジタルの併用について、どこで使えば、効果的かということを考えながらやっていくべきである。

2 「ご自分を大切に」(医学博士 藤井英子)

「心身一如」の考えから「嫌なことは、ほどよく忘れて、新しいことに挑戦した方がいい」「自分を大切にすると説く。小学校の教師に向けては、『子供に「いいこと」と「悪いこと」の区別をきちんと教えてあげることが一番大切』と語る。

心を病んでいる教員も少なからずいる。ぜひ、先生方に読んでほしい。

3 大河原町立小中学校における『志教育』の取組

大河原町の「志教育」の全体構想である。特徴としたら、やはり志教育の中での社会貢献活動というのが大事である。特に中学校の貢献活動は誇れるもので、これがふるさとを愛する、つまり郷土愛に繋がる取り組みになっていく。

志教育を進めていく中で、子供たちの成長がよりよい成長に結び付くように思っている。

4 小学校中学年「教科担任制」の影響(赤坂真二)

上越教育大学の赤坂先生は、小学校中学年での「教科担任制」について言及しており、導入についてのメリット、デメリットをあげている。

「教科担任制の導入は、負担の軽減を約束するものではなく、生徒指導や教育相談の体制を学級担任制のときよりも綿密に設計しないと、さらなる負担増となる可能性がある」と結んでいる。打合せの時間を確実に取る必要がある。

5 「子どもを算数好きに育てるコツ」(算数授業研究No.152)

わからない子供に対してわかるように説明できる子供を育てることが今一番求められているのかなと思う。

宮城の学力が仙台市を除くと、全国最下位クラスっていうのは、やはり今までこういうところのわからない子供に対しての対応ができていなかったところがあると思う。わからない子をわかるようにするということが学校の先生方の使命であると思っている。

6 中学国語

(1) 中学校国語科第1学年「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通じた授業改善（田中洋一、鈴木太郎）

中学校でヒントカードを使用している授業はあまり見られないが、いつでも振り返りができるよう、用語の意味や定義、公式などを各教科で整理した学習のポイントをタブレットに入れておくことはできないだろうか。分からない子に対する配慮がどれだけできるかで、子供の理解度、学習意欲等のアップが図られていくと考える。

(2) 新編 新しい国語1「オオカミを見る目」（高槻成紀）

教材「オオカミを見る目」の分析。小学校で学習したことが生かされる教材である。大きなところを要約していく力が求められている。やはり書く活動はタブレットでは得られない。紙やノートなどを使って、力をつけていくべきものだと思う。

わからない子供たちがわかるようになる、というような授業作りをしてほしいなと思っている。

7 その他

各種事業、研修会、会議、講演、授業の様子等について資料により説明。

丹 羽 委 員 恵まれない家庭の子供たちが大河原に多いということ。そのような家庭を持つお父さん、お母さんが住みやすいということ。これはとても大事なことだと思います。

経済的には恵まれないけれども、志教育というか。非認知能力とかそういったものが高いってことがすごいことですね。ですから、どんな子供でも、よりよく育てる環境があって、みんなで見守ってみんなで成長していくように支えている環境がこの大河原町にあるんだなという感じがして、これが何よりも素晴らしいことじゃないかなと私は思いました。

あと、「心身一如」の話。みんな繋がりの中で生きているんだから、あんだが、俺がっていう話じゃなくて、みんなが仲間なんだから共に生きて行こうというそういう生き方姿勢が大事なんだろうなって思いました。

舟 山 委 員 教科担任制の話。小学校中学年の教科担任制について2点感じました。中学年の教科担任制が果たして良いのか疑問に思った。人間の成長過程で言語中枢能力が固まってくるっていうか成長するのは、9歳ぐらいまでに大体完成する。ということを昔読んだことがありまして。この辺が子供たちの指導の境目なんだなっていう意識したこともあった。

3年生から教科担任制で、次々先生方が変わってきて、いろんなお話の仕方も違ってくる。子供たちは雰囲気も違うとなっていて、受け入れるのが難しいかなって思った点が一つ。

舟 山 委 員	もう一つは、時間変更が難しいこと。これは多分、校内での教科担任、校内の先生方同士での教科担任制を意味している。教科担任制を取り入れるなら、文科省でも思い切ってね、本当にその教科専門の先生を各学校に配置するくらいの努力をしてほしい。先生方に負担をかける。 あと、分からなかった点は、デメリットで書いている、「教科担任制にすると、人と自分を比較し、自己の優越性や劣等感を感じるようになり、これまでに経験しなかった葛藤や悩みが増えること、人間関係のトラブルが増加することを挙げている。」とある。 教科担任制になると、このような事が増えるということがちょっと理解できなかった。
鈴木教育長	1人の担任の先生だと、例えば、子が朝、熱を出してきたので、お母さんから昼、薬を飲ませてくださいますとかね、そういうふうな情報がちゃんと入ってて、あの子は具合悪いんだとか、その子を見るわけです。ずっと見てるから、その子の変化もわかる。1人1人の考え方も、ちょっと沈んでるなとかそういう思いを1人で見てればわかるけれども、先生が変わると、その前の、その子の様子を次の担当の先生がちゃんと把握して指導できるかというところであったり、休み時間に喧嘩してきて、沈んでる子がいて、分かっている先生であれば、それに対応して、「少し休んでから勉強しようね。」とか言えるけれども、代わって新しい先生が来たときに、「なんだお前遅れてるな。」とか、「ノートも出さないでなんだ。」とかっていうことになると、子供たちも満足できないんじゃないかなと。そういう意味かなと私は思っていました。
舟 山 委 員	もし小学校中学年の教科担任制を導入するとしたら、4年生ぐらいからが適当なのかなと考えながら読ませていただきました。
鈴木教育長	教科は限定的でありまして、高学年も英語、体育、理科、算数、このぐらいですかね。専科の教科として入れなさいとやっているのはですね。 他の教科でもやっていいと思う。私は、特に音楽とか体育とかを入れてほしいと思う。
舟 山 委 員	やはり、小学校の場合は、基本の教科となる国語と算数だけは担任の先生にしっかり見てもらった方がいい気がしますけどね。 これからどういうふうに変化していくかですけどね。
一 盃 森 委 員	小学校中学年の教科担任制の影響って、赤坂先生が書いている通りだなって思いました。 私もね、中学年で入れるんだったら、違う形で定数を改善してほしいと思う。これを読んでね。やはり、学級担任制が中心なんだから、中学年ぐらいまでは担任の先生が中心で、やってほしい。先生方が忙しかったり、いろんなことがあるわけだけれども、例えばさっき出てきたようにね、実技教科を、専

	科で入っていただいて、そのとき担任の先生は、それ以外の仕事ができるっていうふうな感じである。 基本的にはこの通りだなと思います。 一つ私が考えたのはね、「主体的で対話的な深い学び」ということで、これまでも教育長さんからいろんな話題提供していただいた中で、子供たちが授業で盛り上がってくると、つい時間をオーバーしてしまうなど、それが小学校の担任制の良いところでもある。 そこが、教科担任だと、あと何分で45分がくるということが最初に先生の頭にあったならば、そういうことって展開できにくいのだと思う。 やはり、そういうふうなこともあって、子供たちからワッと盛り上がってきたら、ちょっと5分なり10分なり授業が延びてもいいので、そこは子供たちのそういうふうな活動に充てる時間としてね、保障するっていうことを私だったらそっち取った方が子供のやる気っていうか、学ぶ意欲が伸びるだろうっていうふうに思うので、違う形での定数改善をしていってほしいなとこれは思いました。
片 倉 委 員	小中学校の志教育というのは、様々な職業を目標にして、今どういうことをしたらいいのかなっていうのを書いたシートですよ。 これいいなと思って、4年生からありますよね。様々な職業があるっていうのを知ることができて、どういった職業にいろいろ関わって知るきっかけにもなる良い取り組みだなと思って。 子供が、やりたい職業が毎年変わるんです。上の2人は変わらず、下の子が毎年変わるっていう、いろいろな職業があるんだっていうのを自分で調べてですね。そういうのを友達同士で話して、いろんなのがあるんだっていうのを調べられるのはいいなと思って。その職業を調べることによって、これからどうやっていったらいいんだろうとか、友達と話し合うっていうのがいいなと思いました。きっかけになるっていうこのシートはとても良いと思って見てました。
一 盃 森 委 員	小学校の段階からキャリア教育を進めていくというので変わりますよね。 小学校の段階で先生方もかなり意識されるようになったっていうのは全然違いますよね。 10ページの表はこれまでに講演をお願いした人と、今後予定している方っていう意味でいいですよ。
鈴 木 教 育 長	来年度が、佐藤源之先生、その次がNHKキャスターの岩間さんや金ヶ瀬出身の育美さんなどを予定しています。
一 盃 森 委 員	国語の話。この中の個別最適な学びで、「指導の個別化」と「学習の個性化」ということで、使ってる教科書で指導事例が具体的な形で示されているわけ

一 盃 森 委 員	だから、ぜひ先生方は1回でもいいから取り組んでほしいなと思いました。そうするとかなり、タブレットを含めた ICT の技術技能も身につくだろうと思う。なかなかね、こういうことでも取り組まない限り、変わっていかないですね。さっき、授業をどういうふうに変えていくかっていうお話がありましたけれども、ぜひやってみたらいいんじゃないのかなって思いました。
-----------	--

(2) 各課長報告

教育総務課長、生涯学習課長

令和6年度行事予定について説明。

10 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 次回の定例教育委員会は令和6年12月20日(金)午後2時から開催する。

11 閉会宣言 午後3時30分

令和6年12月20日

署名委員

署名委員